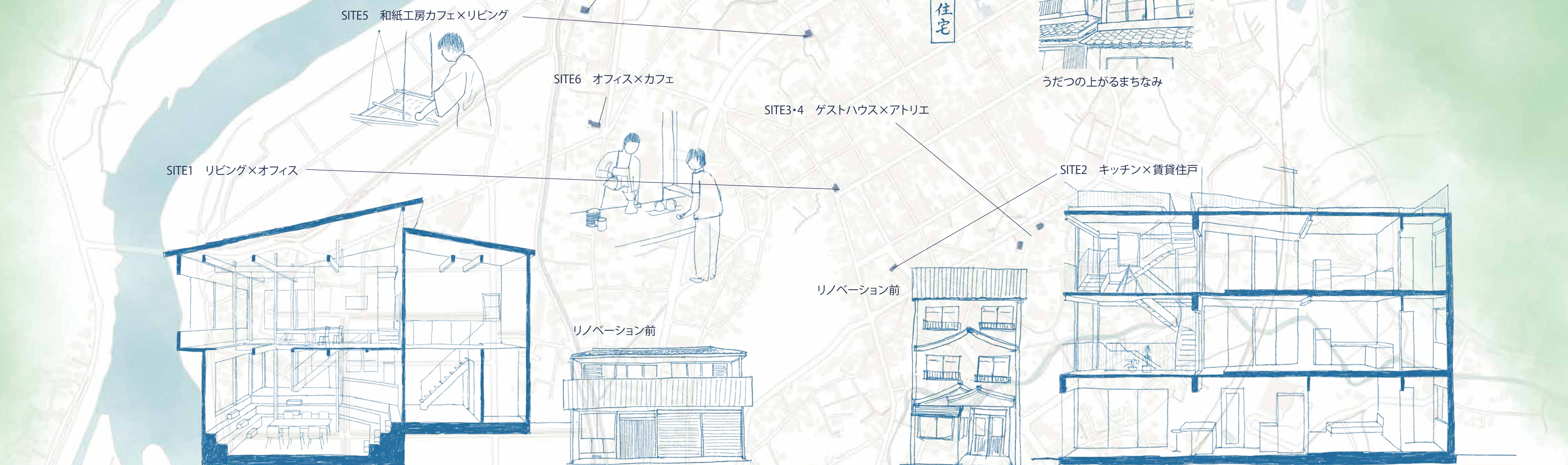


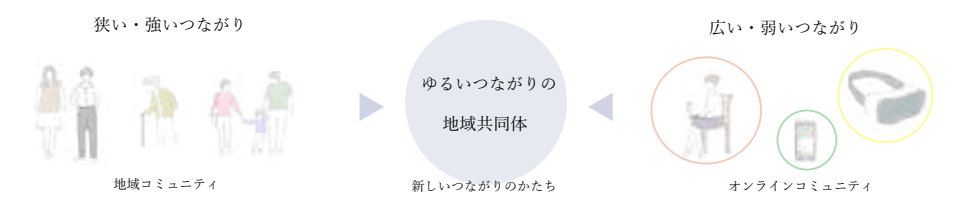
マチ 家を住みこなす

—10年後の地方都市を見据えたまちごと共生すまいのモデル—

10年後の地方都市。私たちの住まいは、まちへと拡張される。情報技術の進展によって暮らしの重心が場所から解放された今、私たちはあらためて、どこに属し、どのように他者とかがわるかを問い直す。10年後の住まいは、ただ機能を共有するだけのシェア空間ではなく、プライベートとパブリック、家とまち、生活機能といったあらゆる境界を意識のレベルから溶かす装置なのではないか。まちなかに点在する空き家や既存住宅を改修し、「家が部屋となり、まち全体を一つの住まいとして捉える」新しい暮らし方を描き出す。



10年後の地方都市と住まい



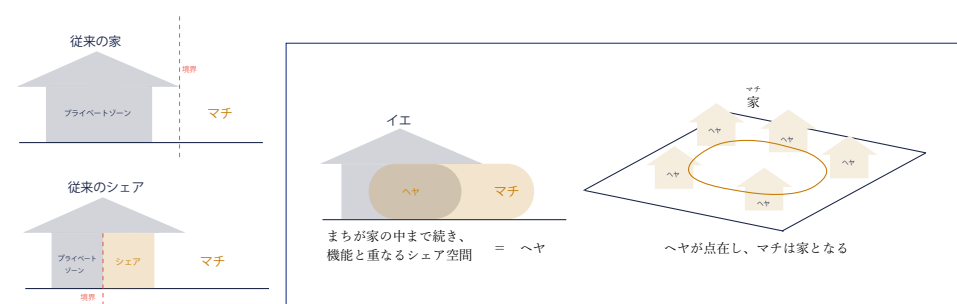
10年後の地方都市は、人口減少や高齢化を背景に、空き家の増加や地域コミュニティの希薄化といった課題が一層進行する。一方で、情報技術の発展により働き方や学び方は場所の制約を超え、暮らしは建物ではなく、基盤としての住まいへと変わりつつある。しかし、オンライン上の軽やかなつながりが広まるほど、身体性を伴った出会いや偶然的な交わりといったリアルな価値も再び求められる。これからの住まいには、SNSのようなゆるい関係と、地域社会のような濃密な関係の間に、新しいつながりのかたちを育むことが求められるのではない。本提案はそうした中間のつながりを支える住まいを、まちそのものを生活の場へと拡張することで実現する。

対象敷地 一岐阜県美濃市—

岐阜県美濃市は「うだつの上がる町並み」で知られる人口1.8万人程度の地方都市である。人口減少や高齢化を背景に、中心市街地には空き家が増加しつつある一方で、観光資源や文化的ストックの豊かさが潜在的な可能性を秘めている。また、美濃市に移住したい若者も増えてきている。



まちを家と捉える住み方

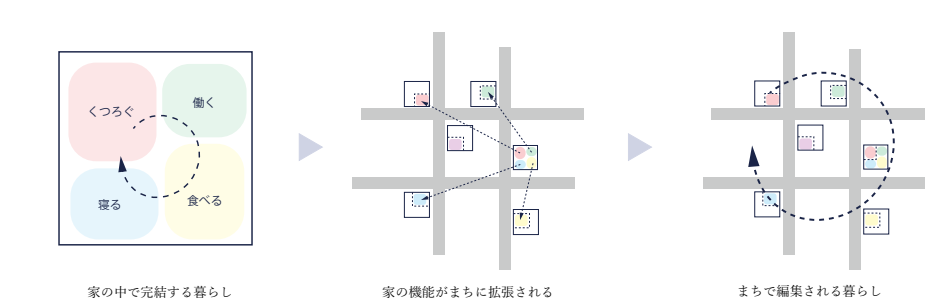


まちと家は境界で区切られてきた。家の中はプライベートゾーンであり、まちはパブリックゾーンである。家がまちに対してつくり出す見えないプライベートの境界はコミュニティを「開く／閉じる」という単純な軸で二分してきた。10年後の「ゆるいつながり」の地域共同体をつくるために、その境界を溶かし、家が部屋となり、まち全体を一つの住まいとみなす暮らし方を提案する。

様々な境界を溶かす新たなシェア空間「マチ部屋」

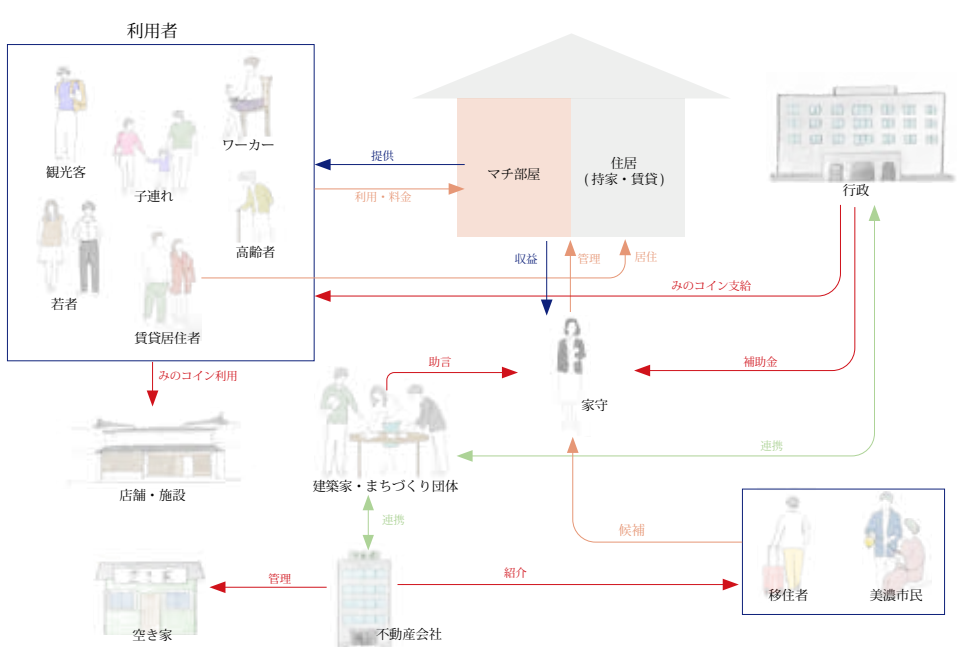
従来のシェア空間は「共有のための場」であり、最初から関わる目的で集まる。一方、本提案の「マチ部屋」は「意識と関係の質」を変えるための場である。マチ部屋は家とまちの関係性、家の内部における生活機能の関係性、あるいはリアルとオンラインの関係性を人々の意識から変える装置となる。まちなかの家を部屋のように使い、まちを家と捉えて生活する。やがてそれぞれの境界が溶けて、オンラインに限らないゆるいつながりの生活がまち全体で可能になるのではないだろうか。マチ部屋は人々の暮らし方そのものを変える仕組みとして、まちにしみ出しながら、10年後の「ゆるいつながり」の共同体を育む新しい住まいの姿を提示する。

部屋がまちなかに拡張される



空き家のリノベーションや既存住宅の改修を通して、まちなかにリビングやキッチン・ダイニング、オフィスといったマチ部屋が増えていく。従来、一軒に家の機能を集約させることで生活が完結していたのに対し、まちに自分の家のLDKや趣味の部屋が拡張され、住民は一日の暮らしをまち全体で編集していく。生活行為そのものがまちの中を漂い、個人と地域の境界も緩やかに混ざりあう。

事業スキーム



人の属性は主に「家守」と「利用者」に分けられる。「家守」は空き家などを改修して一部マチ部屋として開き、運営・管理を行う。「利用者」は、個々に家を持っているが、ニーズや気分に応じて家守によって開かれたマチ部屋を利用する。また「家守」も別の「家守」によって開かれたマチ部屋の利用者である。

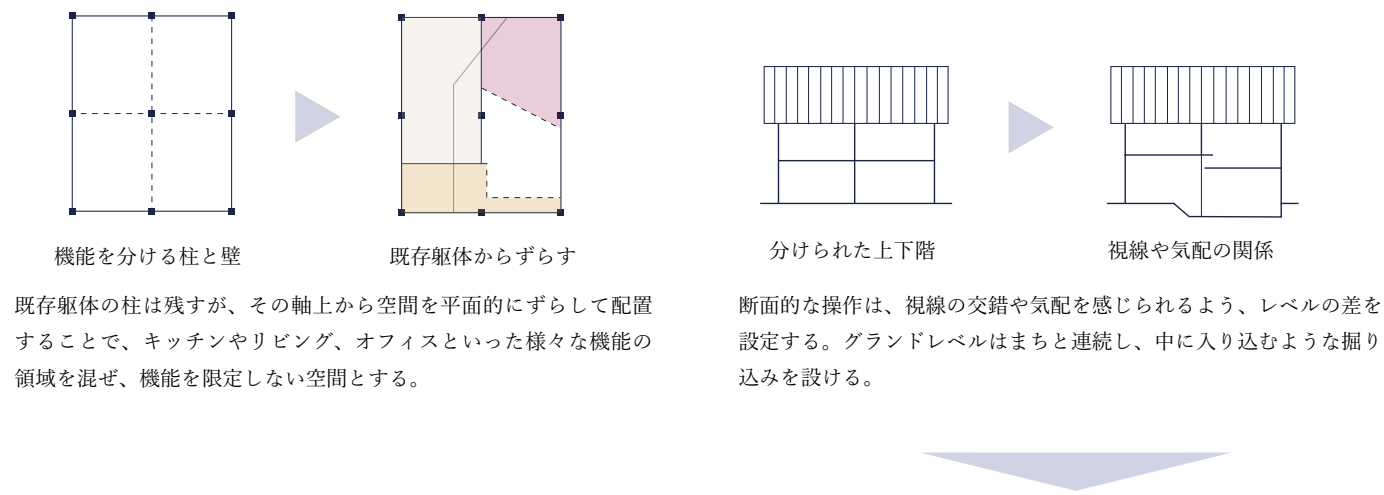
a. みのコイン制度

利用者を支える制度として、「みのコイン」制度を取り入れる。マチ部屋の利用はアプリで管理されており、利用者には「みのコイン」が与えられる。うだつの上がるまちなみなど、地域内の店舗で利用できる。

b. モビリティ

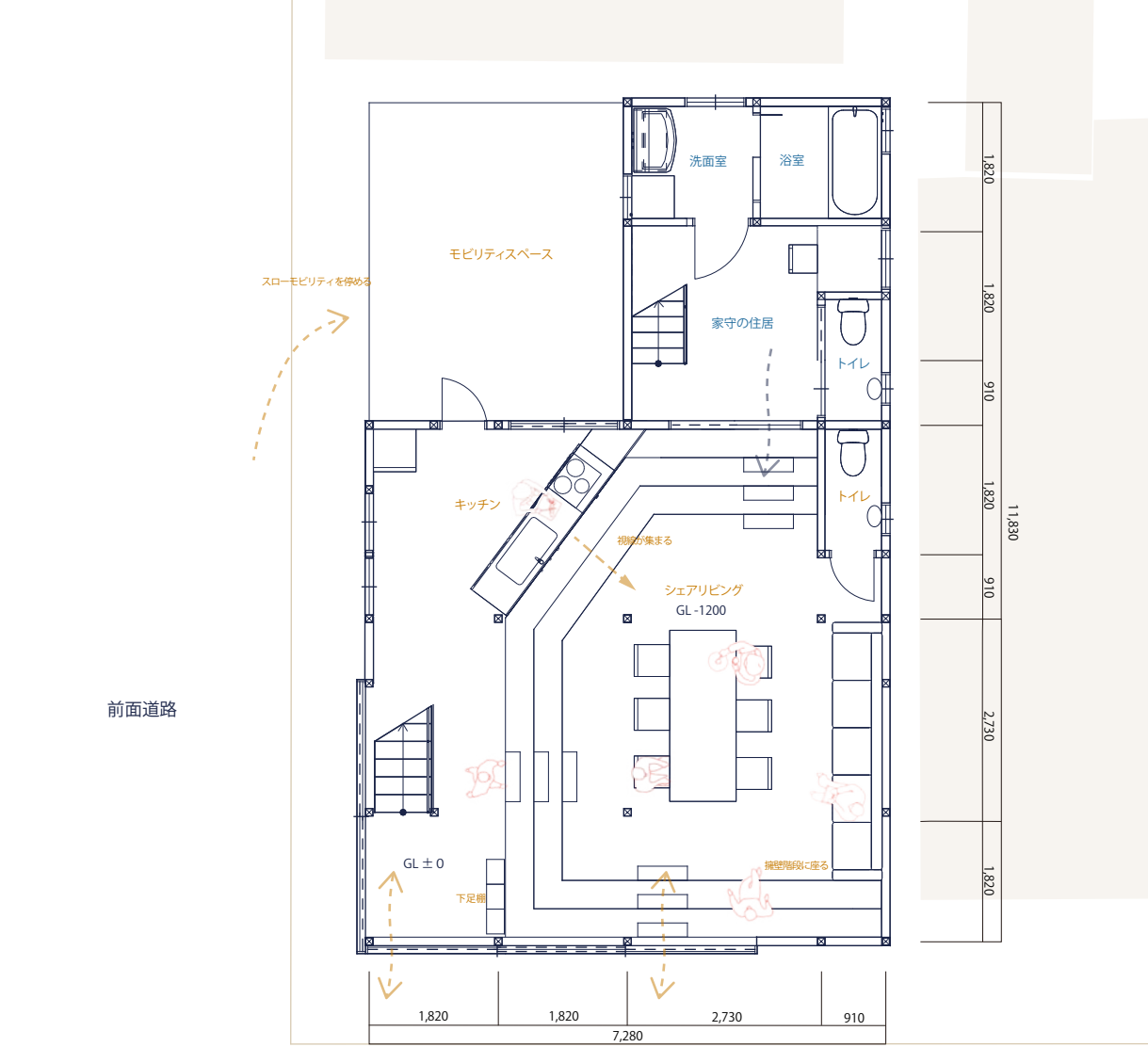
マチ部屋間における移動は徒歩をはじめ、自転車や電動キックボードといったスローモビリティを用いる。10年後には、自家用車の駐車場もシェアとなり、地域内数カ所に集約される。遠出は車や電車、近場はスローモビリティといった分業になると想定する。

建築的操作① ー既存躯体から「ずらす」ー



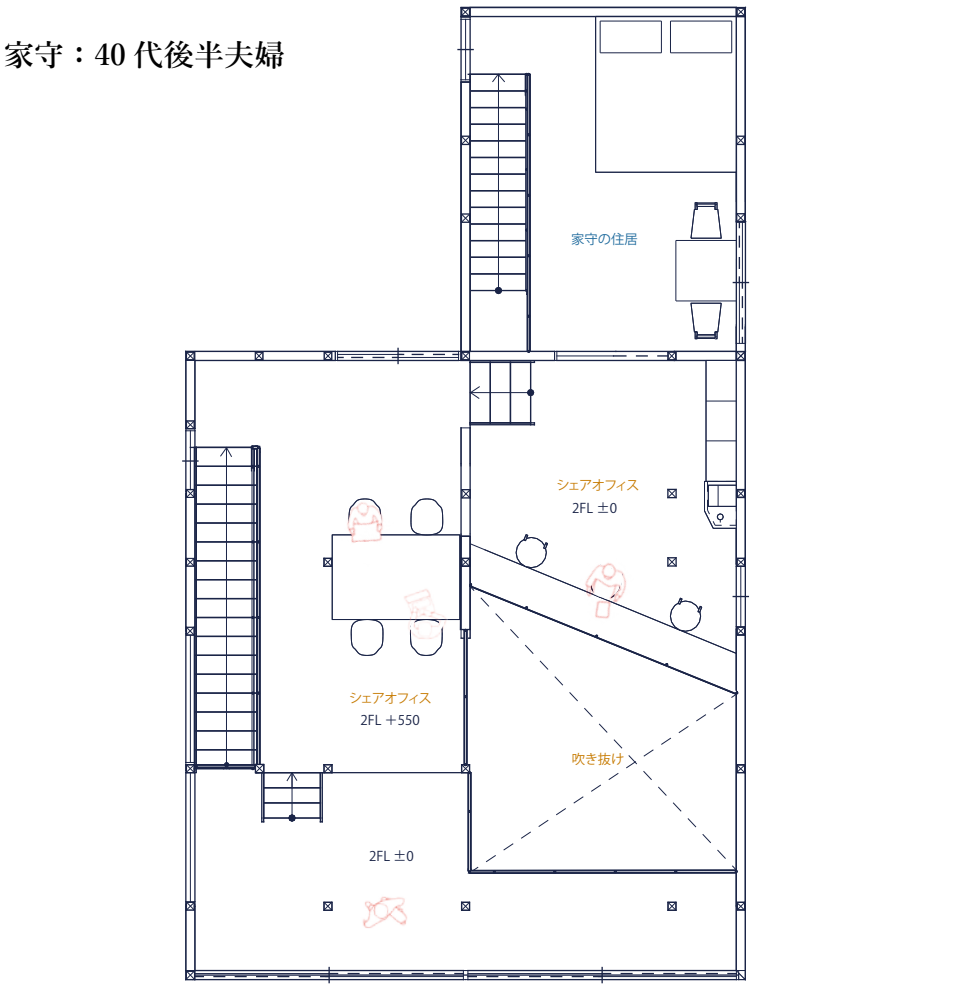
SITE1

俵町 リノベーション前：店舗兼住居（木造2階建て）
シェアリビング×シェアオフィス



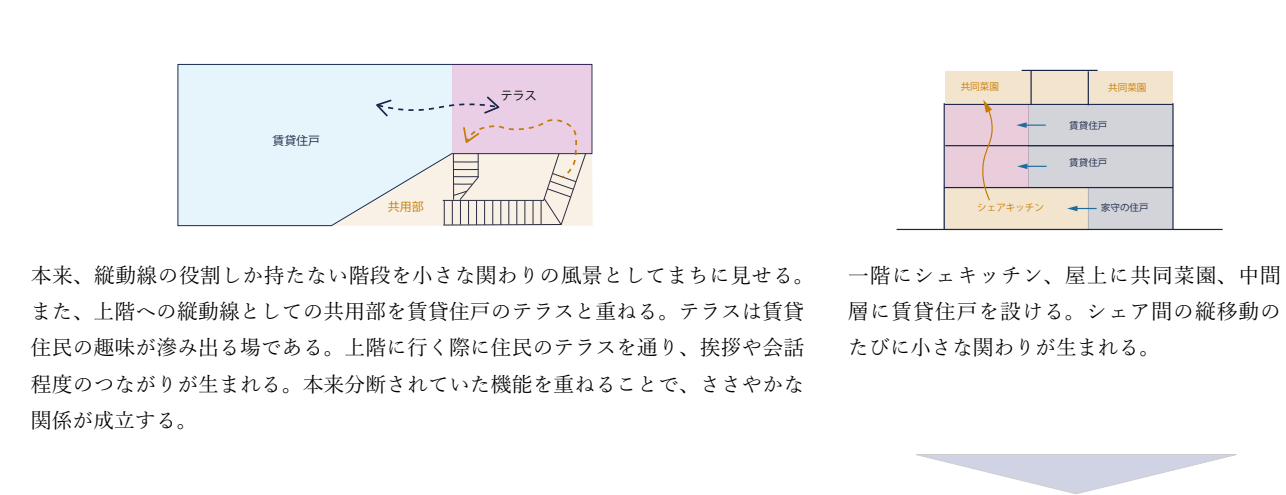
配置図兼 1 階平面図 S=1:100

家守：40 代後半夫婦



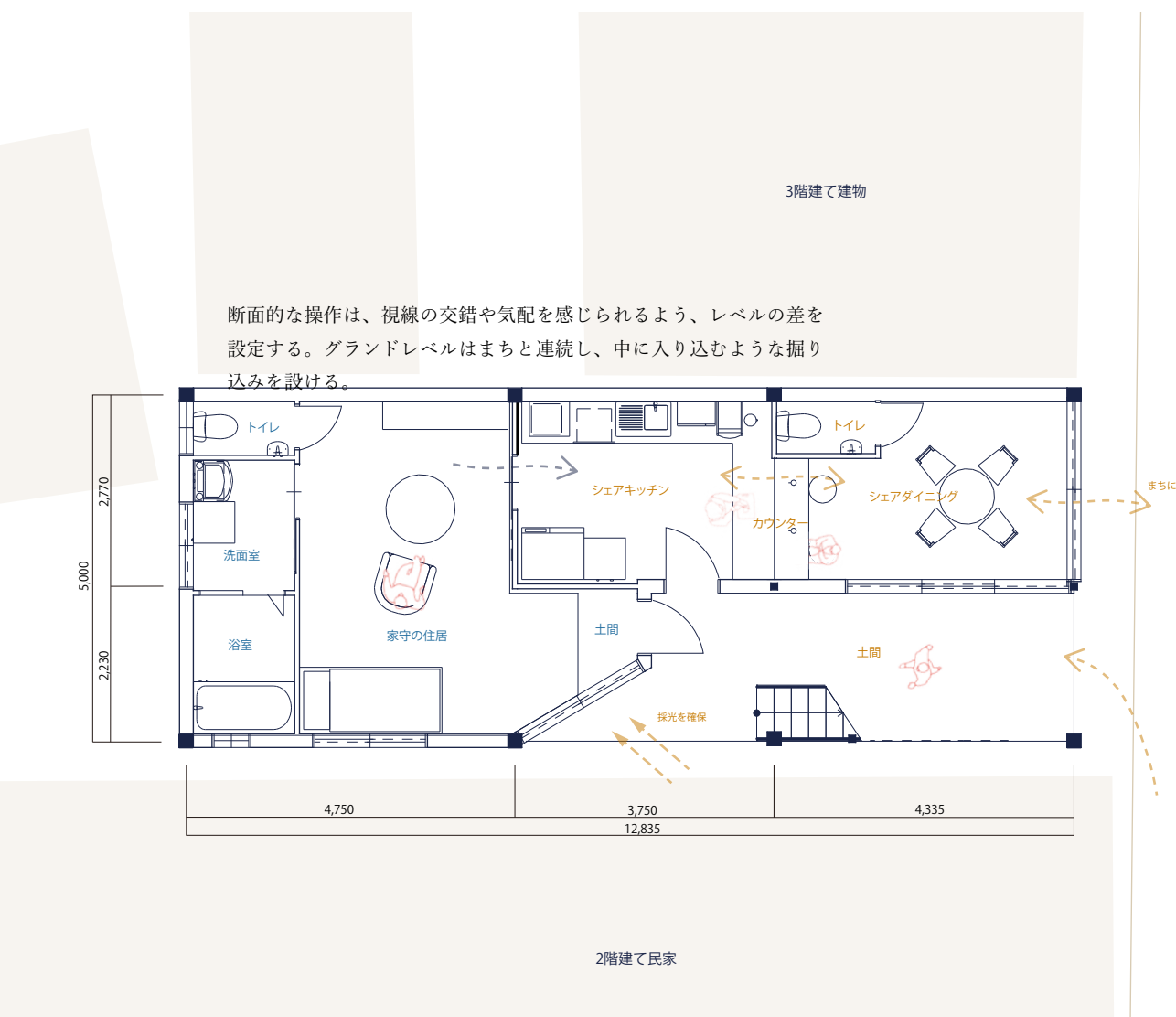
2 階平面図 S=1:100

建築的操作② ー機能の「重なり」をつくるー

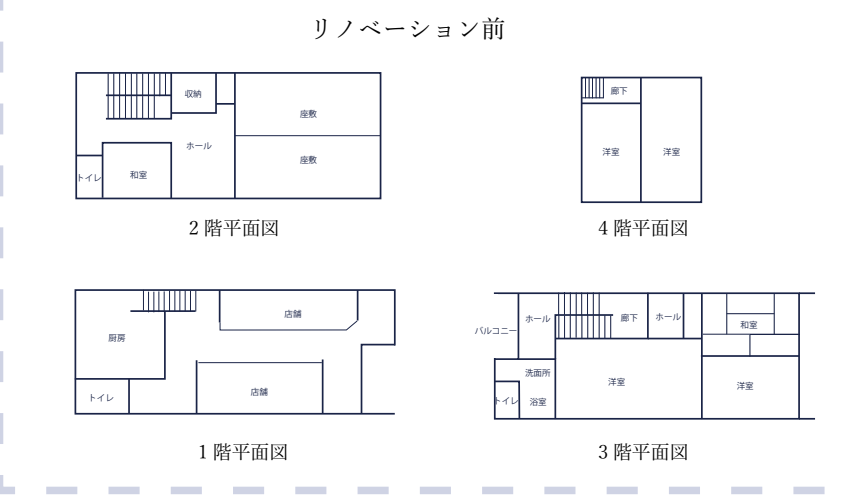


SITE2

米屋町 リノベーション前：飲食店兼住居（鉄骨造4階建て）
シェアキッチン×賃貸住宅



配置図兼 1 階平面図 S=1:100



米屋町 リノベーション前：飲食店兼住居（鉄骨造4階建て）
シェアキッチン×賃貸住宅



2 階平面図 S=1:150

